

校長室の窓から (๑>_<_)、心揺さぶる舞台に向けて ～舞台清めの三番叟から～

三番叟(さんばそう)の練習を見ていて、演者の動きやかけ声などから緊張感が伝わってきました。座長が気にされていたのは、生徒たちの声の大きさです。「もっと大きい声で！」と声を張る5人の生徒よりも大きい声で、お手本を示してくださる場面もありました。その姿に、舞台にかける思いと、子どもたちへの期待が込められていると感じました。先生方には、生徒たちが全力を出し切れるように、温かく、力強いご指導をお願いしております。

「歌舞伎」という言葉は、もともと「傾く(かぶく)」という動きや姿勢を表す言葉に由来すると言われています。歌舞伎は、長い歴史の中で育まれてきた伝統芸能でありながら、常識にとらわれない自由な発想や美意識を内包した表現でもあります。華やかな衣装や力強い演技、型に込められた意味、そして物語に描かれる人間の情熱や葛藤。そのすべてが、観る者の心を揺さぶります。

檜枝岐で学ぶからこそ得られる、またとない体験があります。子どもたちには、歌舞伎の神様の力も借りながら、自分の殻を少しずつ破り、より自分らしく生きること

に挑戦してほしい——。そんな願いを込めて、職員一同、温かく支えてまいります。

